



RI 会長：ステファニー A. アーチック

2620 地区ガバナー：小泉 久司

会長：佐々木 雄二 幹事：中村 将義 会場監督：原 英登

例会：毎週金曜日 19:00～20:00

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中央区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006

E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2025年2月21日（金） 晴 第1687回例会 週報 NO. 25

司 会：古賀孝幸 会場監督補佐
点 鐘：佐々木 雄二 会長
ロータリーソング「我らの生業」
シェークハンドタイム

ゲスト

浜松開誠館中学校・高校 SDGs 部
教師 伊藤 亮 様
影山 晶一郎 様
部員 高等学校 1 年・2 年
3 名の皆さん

ビジター

浜松南ロータリークラブ
直前会長 アーネスト ララカ
シルバー様
直前幹事 宮尾 秀幸 様

会長挨拶



先週、北海道へ行ってきました。北海道へは今まで何回か行っていますが、今回初めて札幌の雪まつりを見できました。大谷翔平さんとデコピンの像があり、写真に撮ってきました。夜のライトアップは見られなかったので、来年は子どもたちと行きたいと計画しています。

今週、会長幹事会がありました。浜名湖レークサイドに向かう途中は雪が降っていました。その中で話に出たのが来月の IM で、たくさんの方に来て頂きたいと

いうことと、その宣伝にガバナー補佐と IM 実行委員長が挨拶に行くので宜しくお願いしますとのことでした。次年度は当クラブが IM の主幹になりますので、他人事ではないと聞いていました。

もう一つ話に出たのが、ロータリー旗です。ロータリーは縦型ですが、日本の国旗は横です。これではバランスが悪いので、二つ縦にして並べているとか、気にしていなかったというクラブもありました。どちらにしても、国歌を歌うときは敬意を払うべきだということでした。

今日は開誠館高校の SDGs 部に来ていただきましたが、若い世代の人たちが何を考えているのか、これからの社会奉仕のヒントになると良いのではないかと思います。

幹事報告



- ・配布資料・・・IM 案内
- ・IM と京都中 RC 合同例会の出欠をお知らせください。
- ・例会終了後、理事会があります
- ・次週は社会員の卓話です。

委員会報告

☆植山和人 副幹事

次週例会終了後、エグゼクティブルームで次年度理事・役員・委員長予定者会議を開催しますので、お集まりください。



スマイル

♪佐々木雄二さん、中村将義さん
今日は開誠館高校 SDGs 部の活動や学生さんの考え方を拝聴したいと思います。楽しみです。



♪川井啓介さん

2025-26 年度第 5 グループ会長幹事会が本日スタートしました。12RC の会長・幹事の皆様が出席しての初顔合わせでしたが。活発な意見も出て、今後も楽しみです。栗原事務局聴、内田事務局次長のお二人には 1 年間大変お世話になります。よろしくお願い致します。



SDGs部の活動について

ゲスト紹介：佐々木雄二 会長

浜松開誠館はスポーツの方では全国大会に出場したりして知名度もありますが、文化部も発表の場が少ないこともあって知名度が浸透していないところがあります。

これから SDGs は企業や個人においてもそれぞれが意識をして取り組まないとできないことだと思います。危機感をもっている若い世代の人たちの意見をしっかりと聞いて、何か手伝えることがあれば活動に取り入れていければと思っています。

*SDGs 部顧問 伊藤亮 先生

生徒の発表の前に本校についてお話します。

本校は 1924 年に開校し今年 100 周年になりました。駅から最も近いロケーションです。グローバルコースと進学コースの 2 つがあります。私立なので公立にない取り組みもあります。また、生徒の主体性や探求に力を入れています。生徒会や SDGs 部の意見を学校が取り込み、例えばジェンダーレス制服を取り入れたり、パープルフライデーという LGBTQ への理解を深めるために紫の服を着てくる運動をしたりしています。

*生徒の皆さん

今日は大きく 2 つに分けて発表をします。1 つは浜松開誠館中学校・高等学校としての取り組み、もう 1 つは SDGs 部としての取り組みの紹介です。

まず、学校としての取り組みです。昨年、気候マーチ 10 月を開催し、多くの生徒が参加しました。初めて開催したのは 5 年前です。2019 年 6 月に気候ネットワーク田浦事務局長による気候変動を考えるセミナーを先輩が受講し、9 月には気候マーチが実現しました。2020 年はコロナのためオンラインでしたが、計 7 回の気候マーチを行いました。最初は 400 人程度でしたが、学生が行うものは珍しくメディアにも取り上げられました。浜松市長に提言書も提出しました。開誠館の気候マーチは生徒会と SDGs 部が中心に行っています。全校生徒が

それぞれが自作の気候変動防止のボードを持って歩くので、道行く人たちからたくさんの関心を集めることもできました。

気候マーチのほかにも気候サミットを行いました。この目的は国を超えて様々な人々と気候危機を共有することです。2021 年には第 1 回小中高全世界気候サミットをオンラインで行いました。モンゴルやニュージーランド、日本各地の生徒などが参加しました。そしてこれらの活動に対して「脱炭素チャレンジカップ 2021 環境大臣賞」など様々な賞を頂きました。

SDGs 部は「生徒の思いを形にする」ことで、私たち自身で SDGs を学び、地域や企業と協力して行動します。主に世界に目を向けた社会問題の探求と浜松市の活性化の取り組みをしていて、これらの活動を通して新しい価値を伝えています。

まずフェアトレードです。浜松市はフェアトレードタウンに認定されていますが、あまり知られていません。私たちはフェアトレードについて勉強会を開き、お店の方と協力してオリジナルブランドのコーヒーを共同開発しました。それをオープンキャンパスやイベントで紹介・販売をしています。コーヒーだけでなく、チョコレートや革製品などの雑貨、小児がんの寄付になるレモネードも扱っています。

アップサイクルは本来捨てるものに新しい価値を加えることです。これによっていらなくなったプラスチックに新しい価値が生まれます。私たちは再生プラスチックについて学び、浜松の企業と会議を重ね、ペットボトルのキャップから植木鉢を作りました。

気候マーチの際に提出した提言書から、毎年高校生が気候変動対策について話し合う「若者会議」が開催されるようになりました。私が参加した時は学校でできる脱炭素について話し合い、コンポストの設置やエアコン使用を減らすなどの意見が出ました。

学校外では私たちの経験を共有するため、出張授業で小中学生に普及をしています。私たちの活動を軸に

現在の問題点、解決策、自分たちに何ができるかを考えてもらうようにしています。これにより、より知識を深めることができ、フィードバックで新たな気づきも生まれました。

私たちの活動は学校や部活で完結するのではなく、様々な団体企業との協力が必要です。最終的には地域や世界の課題解決を目指しています。今後も地域、世界をより良くするために活動を続けます。

*SDGs 部顧問 影山晶一郎先生

先ほども本校は生徒の自主性を重視し、探求学習に重きを置いています。基本的にはそれぞれの生徒が全部の活動に参加するのではなく、自分が重要だと思う活動に関わっています。今日の発表のほかに様々な活動をしています。

SDGs 部がどのように生まれ、どのように活動しているのか、イメージするのは難しいかと思いますが、最初は生徒自身から声をあげ、アクションを起こすのに難しいとありました。

教師はファシリテーターとして、生徒の中から答えを引き出すよう、一緒に答えを出すように活動しています。

今後も生徒のより活発な意見・アクションを引き出せるように意識していきたいと思っています。



出席報告

発表：鈴木 とも子 出席委員

会員数	41 名
出席者数	16 名
出席算定会員数	33 名
出席率	48. 48%

前々回出席者数
24 名
前々回出席率
72. 73%

